

教科	地理歴史	科目	地理総合	単位数	2	履修年次	1年	2年	3年
						履修形態		必修	

教科書	高等学校 地理総合 (第一学習社)	副教材等	コンパクト地理総合地図(二宮書店)
-----	----------------------	------	-------------------

1 学習の目標

地理学習において主体的・対話的で深い学びを実現するために、社会的諸事象の地理的な見方・考え方に根ざした追究の視点とそれを活かして解決すべき課題を設定し、その課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化が進み国際理解の必要性が増している現代において、主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての重要な資質・能力を培う。

2 身に付けてほしい力

○	学びの価値を重んじる思考力	○	あきらめずに最後までやり通す忍耐力
	規律やルールを守り、目標を追求する行動力	○	多様な価値を認め、他者と助け合う友愛力

3 学習評価(評価規準と評価方法)

評価の観点	知識および技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。	地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解をとおして涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとするものの大切さについての自覚などを深める。
評価の方法	- 定期考査、小テスト - 作業学習等の取り組み状況 - その他課題	- 定期考査、小テスト - 作業学習等の取り組み状況 - その他課題	- 作業学習等の取り組み状況 - ノート、課題等の提出状況 - 授業態度等

4 先生からのアドバイス(予習・復習の方法、授業の受け方など)

- 授業を大切にしてください。欠席が重なったり作業を怠ければ、授業についていけなくなってしまいます。教科書をしっかり読み、重要項目の整理や地理的技能の習得に努めてください。
- ペアワーク、グループワークも学習活動です。積極的に自分の考えを述べ、相手の考えを尊重しましょう。
- 一生懸命がんばって取り組んでいる生徒は「主体的に学習に取り組む態度」の観点で評価します。不明な点や納得のいかない点があれば積極的に質問しましょう。
- 定期考査や小テストは、教科書の記述を中心とする授業内容から出題されます。
- 提出を指示された課題等は必ず提出してください。提出しなければ、評価の三観点すべてにおいて不利に働きます。

年間授業計画

	月	単元	学習内容・目標(到達点)	評価資料・方法	評価の観点		
					①	②	③
前期	4月 ～ 5月	第1編 1章 地図や地理情報システムと現代世界 1節 球面上の世界と地図	- 地球上の位置をあらわすために緯度・経度が定められたことと、地軸の傾きによる季節変化と時差の存在を理解し、日本の標準時における諸外国の時間と生活のようすを想像することができる。 - メルカトル図法、正積図法、正距方位図法の特徴と欠点を、知識として身につけるとともに、地球儀と世界地図を用いて、球面を平面に表現する際の特徴と問題点を考えることができる。	- 授業態度 - 発問評価 - 提出課題 - 小テスト - 定期考査	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○
	6月 ～ 7月	2節 国家の結びつきとグローバル化する社会	- 現代世界を構成する基本単位である国家とは何かを理解するとともに、交通・通信の発達によって、生活、社会、産業、国家間の関係がどのように変化してきたかを時系列で理解する。 - さまざまな情報手段を用いて、現在世界で起こっている国境・領土問題について調べるとともに、日本の領域と周辺国との領土問題にはどのようなものがあるか、理解する。 - グローバル化の中で、人・モノ・資本の国際移動の複雑化や、国家的結びつきの変化に気づき、国家が自国の利益などのために結んでいる国際機関の変遷を学習する。	- 授業態度 - 発問評価 - 提出課題 - 小テスト - 定期考査	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○
	8月 ～ 9月	第2編 国際理解と国際協力 1章 生活・文化の多様性と国際理解 ●前期期末考査	- 人々の生活様式の差異を通して、地理的環境が及ぼす影響について学ぶ。 - 世界の自然環境は地域的に大きく異なることを、気候の面からとらえる。 - 世界の特色ある生活文化にはどのようなものがあるか関心を持ち、地域固有の自然環境や歴史、風土に基づいて形成されたと同時に、グローバル化のもとで新たな変化が生じていることを学習する。 - 多様なアイデンティティを持つ世界の人々と共生していくためには、他者の文化を尊重するとともに、自らの文化を知ることが重要であることを学ぶ。	- 授業態度 - 発問評価 - 提出課題 - 小テスト - 定期考査	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○
後期	10月	第2編 国際理解と国際協力 2章 地球的課題と国際協力 1節 持続可能な社会を目指して 2節 すべての人々の尊厳と平等が守られた社会に向けて	- 現在、直面している地球的課題にはどのようなものがあるかに注目し、それらは相互に関連し、地域によって現れ方が異なることを、人口問題、食料問題、居住・都市問題、資源・エネルギー問題、地球環境問題といった具体的な事例を通して理解する。 - SDGsの達成に向け、さまざまな主体による国際協力の重要性を学ぶと同時に、企業の社会的責任やエシカルな消費者としての取組を通して、自らの行動を見直すことができる。 - 各地球的課題について、地域性を踏まえて把握するとともにその問題の所在や解決の方向性をインターネットなどで調べ、話し合う。	- 授業態度 - 発問評価 - 提出課題 - 小テスト - 定期考査	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○
	11月	3節 自然と調和した豊かな社会に向けて	- 資源の限界性と偏在性を理解し、原子力発電を含む世界のエネルギー利用の変化と新エネルギー開発の必要性について考察する。 - 再生可能エネルギーについて、そのメリットとデメリットを比較して、持続可能な社会に必要なエネルギー構成を構想することができる。	- 授業態度 - 発問評価 - 提出課題 - 小テスト - 定期考査	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○
	12月	4節 現役世代と将来世代のための地球 5節 平和で公正な社会に向けて	- 酸性雨・地球温暖化・森林破壊と生物種の減少・砂漠化を例に学び、世界的な取り組みと地域に応じた取り組みが必要であることを理解する。 - 国際社会の中で日本が果たすべき役割を認識し、国際協力について、グローバルに考える視点と身近な問題として考える視点を身につける。	- 授業態度 - 発問評価 - 提出課題 - 小テスト - 定期考査	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○
	1月 ～ 2月	第3編 持続可能な地域づくりと私たち 1章 自然環境と防災 ●後期期末考査	- 世界を大きく変動帯と安定大陸で分類し、多くの自然災害は変動帯で起きていることを理解する。 - 日本に暮らす人々の生活は、気候や局地的な気候、地形などに影響を受けていることを理解する。 - 自然災害からの復興を困難にする複合災害について具体的な事例を通して理解し、これまで学んだ対策を組み合わせて備えるために必要な行動について考察できている。	- 授業態度 - 発問評価 - 提出課題 - 小テスト - 定期考査	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○
	3月	2章 生活圏の調査と地域の展望	- 地域調査について、積極的な調査を実施でき、地域調査の必要性を理解し、地域調査の基本を身につける。 - 地域調査を通して、地域のさまざまな事象に対し5W1Hの発問を設定して課題を抽出し、その解決策を提案し、共有する。	- 授業態度 - 発問評価 - 提出課題	○ ○	○ ○	○ ○ ○

* 評価の観点 ①知識・技能 ②思考力・判断力・表現力 ③主体的に取り組む態度